

念ずれば花ひらく

荒尾市立荒尾第三中学校便り
令和4年3月2日(水)
第21号 文責:森川 孝巳

祝 卒業おめでとうございます

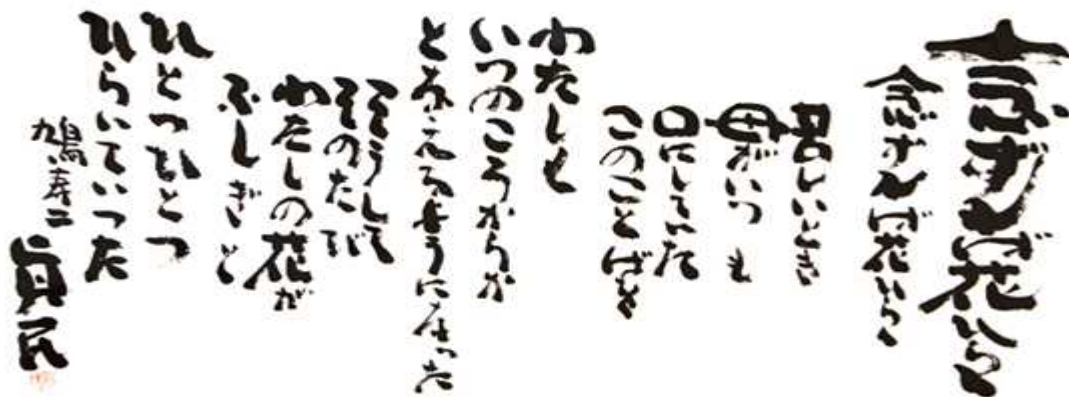
卒業生の皆さんの新たな旅立ちにあたり、お祝いの言葉を二つ贈ります。
一つは、私が大事にしている言葉で、教育哲学者である森信三さんの言葉です。

『人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。
しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。』

これまでの出逢いも、これから先の出逢いも、自分にとってよいことも、悪いことも、すべて自分の成長のためには、なくてはならない出逢いです。出逢いは人を成長させてくれます。自分を信じて一生懸命頑張っていれば、必ず逢うべき人に出逢う時が来ます。

どうか、一つ一つの出逢いに感謝しながら、その出逢いを力に変え、自分自身を成長させていってください。

もう一つは、荒尾市出身の詩人、坂村真民さんの詩「念ずれば花ひらく」です。



「念ずれば花ひらく」とは、ただ念じていれば思いが叶うという意味ではありません。「こうしたい」「ああしたい」というその思いを叶えるためには、寝ても覚めても思い続けるくらいの強烈な思いで一生懸命努力すれば道がひらけてくるという意味です。自分がやろうとしていることが、どう見ても不可能と思えるようなものであれば「そんなことできるわけがない」と誰もが言います。しかし、そのような声に動かされることなく、「いや、それでも私は何としてもやりたいのだ」という信念を伴った思いが大事です。その上で、「では、どうすればやり抜くことができるか」と具体的な方法を考えていくのです。多くの人が、「こうしたい」と思っても、すぐ「このような難しい条件がある」などできない理由を考え始めます。だから実現しないのです。

人間の思いというのは、我々の想像を超えて、凄まじいパワーを秘めています。何か新しいこと、困難なことに取り組むときほど、「絶対実現させるんだ」という強い思いを持ち続け(念じる)、一生懸命に努力し続けることが大切です。これは、世界共通の成功の法則です。自分を信じて、これからも夢や目標に向かって具体的に努力し続け、一つ一つ目標を達成してほしいと思います。(「念ずれば花ひらく」第1号より抜粋)

卒業生の今後の活躍を心から祈念します・・・